

事業所名	放課後等デイサービス ハイタッチ	支援プログラム		作成日	2026年 4月 8日
法人(事業所)理念	子どもたちが、ご家族や地域とのつながりの中で自身の強みを発揮しながら自ら動かたくる環境・きっかけをつくり、「楽しそう！ やってみたい」という探求心を大事にその中で生まれる個々の課題への取り組みや成功体験の中で自己理解・自己肯定感を高めていことを目指します。				
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しそう！と思える活動の提供(楽しめる場所、挑戦できる場所、安心できる居場所作り) ・自分で考え行動する力の育成(個々の強みを見つけ、判断する力・選択する力・意思表示する力を養う) ・感覚運動や指先の訓練(個々の課題に対して個別訓練の実施) ・集団活動、レク活動の提供(集団レク等で体を動かし、体の動きをコントロールしながら運動でストレス等の気持ちの発散、気持ちのコントロール、人間関係コミュニケーション力を身につける) ・個々の目標達成に向けて「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」の5つの領域から総合的にアプローチを行い支援します。 ・子どもたちに関わる関係機関(療育・教育・医療)との関係性を構築し、協働を大切にします。 ・最後に子どもたちとその家族が安心して過ごせるようにサポートします。 				
営業時間	月曜日から金曜日は午前10時から午後6時 土曜日、長期休暇中、学校の振替休日は午前9時から午後5時	送迎実施の有無	有り		
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	意思表示が困難である子どもの障害の特性及び発達の過程、特性等に配慮しながら健康状態の維持や改善、生活リズムの形成、基本的な生活スキルの習得を図ります。日々の健康状態のチェックと必要な対応を行います。自立に向けて健康な心と体を育て、自身の健康状態に意識を向け健康で安全な生活が送れるようになります。日常生活に必要な動作や姿勢の保持、健康に運動や生活ができる体づくりを目指し、筋力や柔軟性の維持又は強化を図ります。障害の特性に配慮しながら時間や空間等の環境調整を行い、遊びや個別訓練、集団活動、地域活動等を通して、子どもたちが自立した日常生活や社会生活を営んでいるように支援します。利用中に体調の変化がある場合には適切な対応を行います。(医療機関への受診、保護者への状況の報告等)			
	運動・感覚	子どもたちが楽しみながら参加できる遊びや運動療育を行い運動機能、バランス感覚、力の強弱、距離感覚の様々な体の感覚の成長を促します。運動療育により関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持や強化を図り、姿勢の改善を図ります。サーキット、ボール遊び、鬼ごっこ、体操、ダンス等にも取り組みながら、上肢・下肢の運動や動作の改善及び動作の習得、身体の移動能力の向上を目指します。着席して活動する時間(静の時間)、体を動かす時間(動の時間)を設け、静と動の動作の理解・習得を目指します。なぞり等の運筆運動や視写、ビジョントレーニング、道具を使った創作活動トランプ、粘土遊びを通して目と手、体を一緒に動かす協調運動により視覚・聴覚・触覚等、保有する感覚を総合的に活用できるように支援します。感覚や認知の特性を(感覚に過敏・鈍麻等)踏まえて感覚の備りに対する環境調整を行うことで、運動能力の向上、日常生活や学習活動における支障の軽減を図ります。			
	認知・行動	視覚、聴覚、触覚等のいろいろな感覚を刺激、活用しながら必要な情報得て行動できるように認知機能の発達を促し、全体指示や情報を場面に適した良い行動・してはいけない行動を認識し、場面に適した行動を習得できるように支援します。特性に応じた環境設定、小集団での活動、ルール遊び、SST等取り組みながら個々の特性に配慮しながら認知の備り、こだわりや備えへの対応を行います。活動スケジュールを視覚的に分かりやすく提示を行い活動の始終・見通しを持った行動を学び、切り替えの時にはタイムタイマーを使用する等、時間を意識しながら行動を切り替えやすくする環境設定を行います。曜日、数の並び、大小の認識、色の把握、空間把握等に関する認知感覚の形成・活用に向けて、ブロック遊び、マッチング、型はめ、ひも通し、フットインなどの個別訓練を提供しながら各概念の習得を図ります。制作活動では工程表を使用することにより見ると、真似る力をつけ、作業に繋がるようにスモールステップで支援を行う。適切な行動の形成・認知の備りへの配慮、保護者との共通理解を通して情報を適切に処理できない難しさを生ずる行動の予防および対応方法を考えます。			
	言語コミュニケーション	物の名称や生活の中で必要な言葉の習得、日々の出来事や体験を言葉とマッチングすることにより、語彙を増やし、自発的な言葉や会話の表出を支援します。集団療育や余暇時間にいろいろな年代の児童と関わりを持てる場を提供し、他者とのコミュニケーションを学び集団の中で語彙力の向上を目指し、挨拶や日常会話の習得、自発的な会話力を育むと共に、会話のやりとりの中で自身の思いを適切に伝える、相手の気持ちを知ること気持ちに折り合いがつけられるように支援します。スムーズに会話できるよう支援員が見本の提示やアドバイスをします。SSTやロールプレイ、集団療育を通して、言動の適切・不適切を学び、自分の気持ちや考えを適切に伝える方法、相手の表情に注目しながら相手の気持ち、考え、会話の意図の読み取り等の会話技術の向上を図ります。相互的なコミュニケーション能力の獲得を促し、自分のやりたことを伝える、手伝ってほしい時に援助を求めるとSOS等、生活の中で自分自身を大切にするために必要な言葉や行動を習得できるように支援します。個々の発達段階に応じたコミュニケーション(身振り・指さし・サイン・ジェスチャー・絵カード・言葉・文字を使う等)や気持ちの代弁等の支援を行い、個々の発達段階に応じたコミュニケーション手段を見つけて自分の気持ちを表出できる伝えられるように支援します。障害の特性に応じたプリント学習を通して、文字の読み書き、文章を読んで理解する(読解力)を育み、読み書き能力の向上を目指します。帰りの会で「今日の楽しかったこと」を発表する機会やレク活動の中でも仲間と話し合う機会を設けており、自分の思ったこと感じたこと、意見等を言語化し、話す・聞く力を養い、伝達能力の向上を図ります。			
人間関係社会性	人との関係を意識し、信頼関係を築きながら、周囲の友達、見守ってくれる大人と安定した関係を形成(アタッチメントの形成)ができるよう、子ども達の想いを傾聴しながら一人一人に寄り添った声掛けや支援を行います。友達との関わり方に関して、支援員が見本を示し、助言を行うことで他者との関わり方を学び、他者理解を促すことで他者との肯定的関わりを増やし、楽しい時間が過ごせる場所・活動を支援します。集団活動やグループ活動、余暇時間を通して、ルールや順番を守る・役割をこなす・指示に沿った行動をする・友達と協力する、他者を意識した言動、行動をする・失敗や負けを受け入れ、気持ちをコントロールし、再度挑戦する等の経験を積みながら、自分の得意なこと、苦手なことなど自己理解を深め、自分の行動の特徴に気づくことで対処法(行動の調整)、権限のコントロール方法の習得を目指し、集団の中の一人として、良いことと悪いことに気づき、考え行動する力を養い、集団で発生する様々な人間関係において、相手も自分も大切に行動を選択できるように支援します。集団に参加するための手順やルールを理解し、公共施設等での室内外活動、公園や図書館の利用、地域活動への参加等、社会資源の活用を行いながら社会性・協調性を育み、地域と一緒に生活していくために必要なスキルを身につける機会を作ります。				
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族が安心して子育てを行うことができるように、ご家族の子育てに関する困りごとに対する相談支援(困り事があった時には、管理者、児童発達支援管理責任者にもつても相談できる環境の調整) ・ご家族・兄弟児に対して、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援(子どもとの関わり、兄弟に関すること等の様々な不安や困り感へ対応) ・子どもの発達上のニーズに対しての気づきを促し、ご家族との課題の共有、本人の想いの共有、課題解決に向けて支援方法の提案、家庭と連携して支援の実施(ご家族に対する支援場面を通じた学びの機会の提供) ・連絡帳や送迎時に日々の療育の様子や取り組みを共有し、支援後のフィードバック(子どもの発達状況や支援のニーズの共通理解) ・ご家庭、事業所、学校等の関係者、関係機関との連携を図り支援体制を構築(ご家族のバックアップ) ・必要に応じて、相談支援事業所、他放課後等デイサービス事業所、短期入所等を実施する障害福祉サービス事業所、発達障害者支援センター、児童相談所、専門医療機関、保健所等と連携(関係機関協力しながらの家族支援) 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> <進級・進学・就労先・地域への移行支援> ・子どもと家族のニーズや想いを確認しながら、学校(進級・進学)、家庭、地域活動、移行するための個々のニーズの確認し、移行先を検討相談、移行することで見込まれる成長の検討(子どもの発達の評価・支援、家族への情報提供・相談支援、具体的な移行の提案) ・各ステージへの移行を目指し、社会の中で自立し、活躍できるような支援を個人に合わせたスモールステップで行い、習得したことを学校(進級・進学)、家庭、地域活動等と同様の行動ができるよう支援し、地域の生活の場、育ちの場を整え地域との繋がりを構築(インクルージョンに向けた取り組みの推進) ・進級、進学、就学時に引継ぎ資料の作成や必要に応じて学校、関連の医療・福祉施設、地域施設と情報交換や担当者会議、訪問等を行い、包括的な支援を行えるよう環境作り(移行先との支援方針・支援内容・支援方法の共有、子どもの状態・保護者の意向についての共有) ・進級、進学に情報共有を行い、環境の変化に左右されずに一貫性を持った支援を提供(引継ぎ、情報共有) ・家庭、教育との連携・協働による支援の実施、切れ目のない支援のための縦横連携を大事にライフステージの変わり目においても関係者間の連携を構築(家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトの重視) ・学校との連携や支援の構築など、同年代の子どもたちとの仲間づくり等の支援(地域移行を支援) 		
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントへの参加や公共施設・公園・図書館等の利用、地域と交流する機会を提供(地域資源の活用) ・地域こども園、障がい児通所支援事業所、就労事業所との交流を計画実施。子どもたちが地域で適切な支援を受けられるよう、関係機関と連携しながら地域の子育て支援力を高めるためのネットワークの構築(地域との繋がりの構築) ・地域生活に関する保健、医療、福祉、教育、労働等の関係機関、障害福祉サービス事業所、障がい児通所支援事業所、相談支援事業所との連携を図り、支援方法の情報共有や会議への参加(相談・支援・連携) ・個別の支援会議又は日々の子どもたちとの関わりや支援を通しながら、生じた課題等を地域の自立支援協議会、事業所連絡会等において検討するなど、地域全体の課題として取り組んでいく。(自立支援協議会、事業所連絡会等への参加) 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・県や市町村、児童発達支援センター、障害児支援関係団体が実施する外部研修等への参加、事業所内における定期的な研修会や勉強会を開催(障がいへの理解を深め、新しい支援方法を学ぶ機会の確保、支援の質の向上) ・事業所内で虐待防止、身体拘束適正化委員会の実施、事故防止に関する研修、感染症に関する研修、防犯に関する研修、災害に関する研修、職員が希望する研修への参加、オンラインにていつでも研修が受けられる機会の確保(職員の質、支援の質の向上) ・地域の学校、医療機関・福祉機関等からの情報収集(情報の収集、情報の提供) ・日々のミーティング、会議を開催し、子どもたち1人ひとりの情報や支援方法の共有(職員間の感覚、認識、支援方法の統一) 		
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して誕生日会や季節に応じた行事ごとの制作活動やクッキング、地域交流(他事業所・高齢者施設・こども園との交流活動) ・就労体験(就労支援事業所や一般企業の協力の元、開催) ・スポーツ大会、レク大会、マラソン大会(事業所内開催、他事業所と合同開催の場合もあり) ・おでかけ(公園遊び、公共施設の利用、買い物体験、外食等) ・避難訓練(地震津波、火災、水害、年2回以上) ・不審者対応訓練(年2回以上) ・その他(熱中症対策指導、交通安全指導等は必要に応じて開催) 				